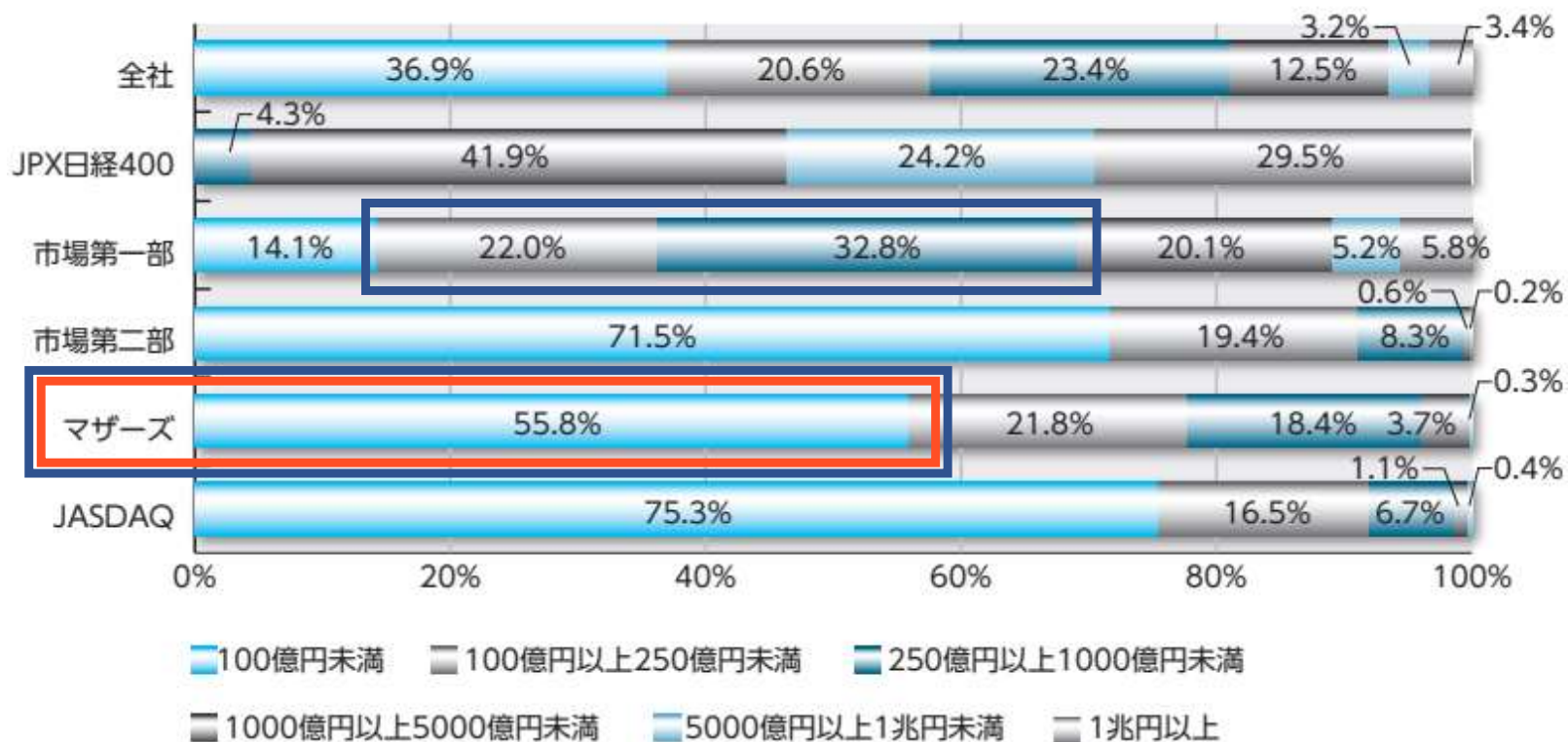


図表 6 時価総額 (市場区分別)



【IPOの目線】

- マザーズ上場の約半数が時価総額100億円未満。
最近ではIPOした時の時価総額よりもバイアウトの方が時価総額が高くなるということもあるようだ。EXITをIPOだけで考えるのではなく選択肢としてはバイアウトも視野に入れて考えよう。
- VCからは時価総額を500億にしろと言われるけど、上場した会社でもそこまでの規模じゃない会社もあるんだな。
- ∴「売上高」も「時価総額」もVCの言葉を鵜呑みにするとプレッシャーが強まるだけなので、客観的な数字も把握する必要があるようだ。

【IRの目線】

- 時価総額100億円未満の会社の株主は、多くが個人投資家。
- 「誰が持っているか」によってIRの方法は変わってくるから、自社の株主構成を把握してからIR戦略を立てていこう。
- 時価総額が100億円～1,000億円だと国内の機関投資家が徐々についてくれるようになるので、IR戦略を変えていこう。
- 時価総額2000億円でも海外の機関投資家からは「中小型」とみられることがある。
- プライム市場を見据えると「時価総額」だけでなく「流通量」も基準になるので、ヘッジファンドによる売買も重要となる。